

# サポート要件違反：補正なしで解消する「反論」の戦略的データ

2023年にサポート要件違反の拒絶理由に対し、補正をせず反論のみで対応した259件の調査結果です。  
全体の約81%が反論のみで拒絶理由を解消しており、特に審査官の認定ミスへの指摘や面接の活用が極めて高い成功率を示しています。



## 約20%は審査官の「見落とし」

明示された記載の場所を指摘するだけで、98%の事案が解消した。



## 補正なしの反論で「81%」が解消

259件の調査対象のうち209件で拒絶理由の解消が確認された。



## 面接の活用で解消率が「94%」に向上

面接なし（78%）と比較して、対話による理解促進が極めて有効。

## 解消率を高める4つの戦略的視点

## 拒絶理由の類型別の解消率を比較



### 「課題の認定」を争う (解消率95%)

審査官が認定した課題の誤りを正す反論は、非常に高い解消率を誇る。



### 明細書に基づく 「メカニズム」の説明

明細書の記載を根拠とするメカニズム主張は89%の解消率を記録。



### 証拠・データによる 技術常識の立証

審査官が根拠なく認定した技術常識に対し、資料で反論し解消した例が多い。



### 類型①：明細書に 記載・示唆がない

事例数：59件  
解消率：80%



### 類型③：技術常識で 拡張・一般化不可

事例数：86件  
解消率：76%



### 類型④：課題解決 手段が未反映

事例数：77件  
解消率：90%